

CT・MRI 検査における造影剤使用についての説明

野田病院 放射線科

● 造影検査とは

- 患者様の現状の症状に対する原因を調べるために、造影剤を用いた検査を行います。
造影剤(CT:ヨード系造影剤 MRI:ガドリニウム系造影剤)を静脈内に投与し、画像診断の際に特定の臓器や病変をより明瞭に描出できる利点があります。
- 造影剤を用いない検査も可能ですが、診断能が著しく低下することがあります。
また検査の種類によっては、造影剤を用いないとできないものもあります。

● 副作用について

- 造影剤は一般に安全で、広く用いられている検査薬ですが、副作用が起きることがあります。副作用は造影剤注射直後から1時間以内に発生する即時性副作用と、7日目程度までに発生する遅発性副作用があります。
- 検査中や検査後に下記の症状がある場合は、自己判断せずすぐに病院スタッフに伝えてください。また帰宅後に症状が出た場合は、野田病院までご連絡ください。
- 副作用が発生した場合は、担当医にすぐに連絡を取り、看護師、放射線技師とともに最善の対処をいたします。

● 副作用の程度と症状

副作用の程度	副作用の種類	副作用の頻度
軽度	悪心、嘔吐、熱感、かゆみ、 蕁麻疹、くしゃみ、頭痛 など	3%(100人に3人程度)
重篤以上	呼吸困難、急激な血圧低下、意識消失、 けいれん、アナフィラキシー など	0.001%(10万人に1人程度)
	死亡	0.00025%(40万人に1人程度)

● 検査される方の前準備について

- 検査当日は検査時間によって食事の制限をさせていただきます。
- 検査前の水やお茶の水分制限はしていませんが、ジュースや乳製品は避けてください。
- 装飾品や貴重品は検査の妨げになる場合があります。不必要な金属類は持ち込まないようお願いします。
- 糖尿病薬のうちビグアナイド系糖尿病用薬はヨード造影剤と併用した場合、乳酸アシドーシスを生じる可能性があるため一定期間の休薬が必要となります。内服している場合は、担当医に必ず伝えてください。

● 造影検査に対する注意事項

次の項目に当てはまる患者様は、事前に医師にお伝えください。造影剤の使用時は慎重に投与を行い、また場合によっては造影剤を使用せず検査を行います。

- ・造影剤に過敏症の方(以前に造影検査で副作用が発症した方)
- ・重度の甲状腺疾患がある方
- ・けいれん、てんかんおよびその素質がある方
- ・一般状態が極度に悪い方
- ・アレルギーに既往のある方
- ・喘息の既往がある方
- ・重篤な腎障害、肝障害、心障害がある方
- ・マクログロブリン血症、多発性骨髄腫、テタニー、褐色細胞腫のあるまた疑いがある方